

算命学中庸

【初年】 29 回目

29 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【十大主星特性①】

・【初年】 29 回目【十大主星特性①】 01

じゅうだいしゅせい とくせい
「十大主星」の特性をまなびます。

参考：特性〔そのものが他と異なって特に備えもつ特有の性質〕

➡ 貫索星・石門星

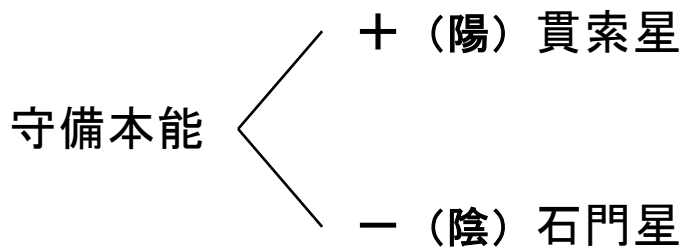
かんさくせい せきもんせい
貫索星と石門星は守備本能の星です。

📖 28 回目【十大主星と五本能】を併用するとよいでしょう。

「十大主星」にも五行（木火土金水）があり、その順序で説明します。

守備本能は自分を守ろうとする本能です。

守備本能にも（陽）と（陰）の星があります。



＋の守備本能を貫索星、－の守備本能を石門星といますが、この星の意味合いをいうときには、陽と陰の違いを考える必要があります。

【三つの礎】 その(3)陰陽論で勉強しましたように ——

「主体性のあるほうを陽とする」という規範きはんがありました。本能を考えるときも……、星について考えるときも……、つねに「主体性のあるほうを陽とする」ということです。

辞書・主体性〔行動するとき、自分の意思や判断に基づいて自覚的であり

そういう態度や性格をいう〕

“まも守り”について考えると、自分を守ろうとする守り方にも、大きく分けると、二通りあるのです。

☞ 1 つは「自分の力で自分を守る」というやり方です。

^{ひと}他人に助けを求めずに、自分のチカラで自分を^{まも}護ります。

☞ 1 つは「協調して自分を守る」というやり方です。

^{ひと}独りでは^{こころもと}心許ないから、まわりの人と一緒に、あるいは仲良く友達になって、仲間を増やして、その協力で自分を護ろうとするやり方です。

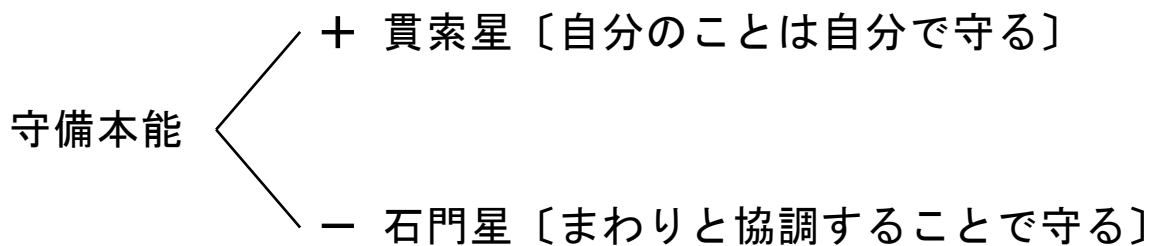
どなたでも、程度の差はあるでしょうが、両方の守り方をつかったことがあるかとおもいます。

子供のころでも、あるいは、大人になって会社とかでの社会生活を送っているときに、自分のことは自分で一生懸命に守り、自分の立場を自分のチカラではっきりさせなくてはいけない。ということもあるでしょう。

ときには、なるべくまわりの人たちと仲良くして、友達になって、味方を増やして、その人たちと協調しながら自分を護っていくというやり方もありますね。

この二通りの守り方を比較したときに、どちらのほうが主体性のある守り方なのかといえば、自分で自分を護るほうが主体性はあります。

貫索星（陽）は、自分で自分を護るという守備本能です。



石門星（陰）は「他と協調して自分を守る」という意味があります。

仕事であろうと、私生活であろうと、まわりの人達と、仲良くしていたほうが、自分の立場とか、あるいは、自分の生活そのものが安定します。

まわりと喧嘩して、誰とも協調しないとなれば、自分の守りはしっかりしません。

会社に入っても、まわりの人たちと仲良くして、協力して物事を進めるほうが信頼感も高まるでしょう。

ただし、そういう守り方は、まわりと協調しなくてはできませんから、自分の主体性をあまり押し出せないといえます。

石門星をもっている人の気質の内面には強さがあるのですが、その質を前面に押しださない傾向があるということ、念頭において占うことになります。

参考：協調〔互いに力を合わせて助け合うこと〕

〔利害の相反する双方が協力して問題を解決すること〕

“まもり”ということでは、おなじであっても〔自分のことは自分で切り抜けていく、自分の立場は自分で護る〕という、人を頼らないで自分でやっていくという主体性のある護りは、他人^{ひと}を頼りませんから自分自身のチカラを充分に発揮できます。

このように〔貫索星〕と〔石門星〕の守りは異なります。

「十大主星」はそれぞれに特性があります。
それは各星の（陰）と（陽）の違いを含めて決まったのです。

☆ 貫索星

貫索星はすでに少しやりましたが、守備本能の^{ようせい}陽星です。

^{かんさくせい}貫索星 ⇒ 守備（陽）

「自分で自分を守ろうとする星」なので、主体性がある
守備本能です。

人を頼らず自分で自分を守ろうとする ⇒ 独立心

貫索星はまわりと協調しないで、自分で自分を守ろうと
するので、独立心が強い人です。といえます。

言葉を変えれば「自分のことは、自分でやろうとする人です」

^{ひと}他人を頼ろうとしませんか、意志が強くないとできま
せん。貫索星は意志が強い星です。

意志が強い

一旦、こうと決めたら、まわりがなんといおうと、^{つらぬ}貫く
という質をもちます。

意志が弱いと、なにかと人に頼ろうとします。

だからといって……協調して守る星〔石門星〕が弱いとか、悪いとか、そういうことではないのです。

貫索星は意志が強く、人を頼らないでやっていく、独りでなんでもやろうとする人です。

その質をいいかえれば、単独行動が得意な人といえます。

単独行動が得意でマイペース

みんなで一緒に行動するよりも、単独で行動するほうが
性に合っています。

単独行動が得意……貫索星の特徴です。

同僚・友人に進度を合わせることなく、自分のペースで
何事も押し進めようとする人になります。

これらはすべて貫索星の特徴ですが、どれも似たような
意味合いが含まれています。つまり共通するおなじような
言葉の内容が少しずつ含まれているといえます。

これらを統合して、“頑固”という言葉をつかいます。

ようするに“頑固な人”と考えられます。

貫索星を“頑固な星”といいます。

頑固（がんこ）

人体図に貫索星が 1 つあるだけで「ああ頑固よね」とか
いいますが、いくつもあるような人は、とても頑固な人
になります。

＊ こいずみ じゅんいちろう 小泉 純一郎 1942(s17)1-8

							1 庚子
	辛	辛	辛		貫索星	天極星	11 己亥
子	酉	丑	巳	貫索星	鳳閣星	玉堂星	21 戊戌
丑		癸	戊	天祿星	貫索星	天印星	31 丁酉
		辛	庚				41 丙申
	辛	己	丙				51 乙未
							61 甲午
							71 癸巳

前総理・小泉さんの人体図をみると、貫索星が 3 つもあ
ります。非常に頑固で意志も強いです。

自分のことは自分でやろうとしますし、単独行動も得意でマイペースです。閣僚を決めるときも、誰にも相談しないで、^{ひと}独りで考えて、すべて自分で決めたそうです。

政治家としては、それでいいのかも知れないですけど、私生活を考えると、結婚相手の女性は大変です。

この人について行く奥さんは大変です。

貫索星3つということもありますけど、彼の宿命そのものが特別ですから、ふつうの女性は弾き飛ばされてしまいます。ふつうの女性では、まず、ついてはいけません。彼の場合は離婚しています。

貫索星が悪い星とか一切論じていませんよ。

小泉氏の宿命の特徴なのです。

小泉氏との結婚ということでは、相手がかなりな程度の星をもっていないと難しいのです。

貫索星には“頑固”という部分に特徴があり、融通は利きません。そういう面があります。

融通がきかない

人生の途中で、方向転換は難しいです。

〔たとえば〕 ふつうの人物であれば、転職するとか —— 離婚して再婚するとか、そのようなときに、舵を大きく切って、大きく人生を転換して、というような生き方は、あまり得意ではないです。

1 つの物事をずっと ^{つらぬ} 貫いていく、そういう生き方は得意なのですが、融通がきかない側面をもっています。

人生の方向転換は得意でない

小泉さんは、ロンドンに留学していたときに、父親が急に他界したので、日本に帰ってきて政治家になりました。その後はずっと政治家です。1 つの仕事をズーっと貫く、そういう生き方は向いています。

もし……何かの理由で、転職しなくてはいけないとか、まったく違う世界に行かなければならない（職場・仕事）というような状況になると、生き方は難しくなります。

〔たとえば〕 貫索星がいくつもあるような人が、突然に会社をリストラされた場合、その状況から立ち直るため

には、相当な時間を必要とします。

急に方向転換できないのです。

会社を移ろうとしても、簡単にはいかない人です。

貫索星の一途さ、頑固さ、そこがよい特質でもあるのですが、場合によっては“手かせ足かせ”という欠点にもなります。

単独行動が得意でマイペースということは、協調性に欠けます。

協調性に欠ける

主星に貫索星がある人、あるいは、貫索星がいくつもあるような人は、協調・共同の資質に欠けます。

単独行動が得意で、独立心が強いですから、組織を頼らないで、自分一人で出来る仕事を独立して何かをやる。そういう生き方に向いています。

仕事は独立する ⇒ 自分一人^{いちにん}で出来る仕事。

サラリーマンになって、組織のなかに入ったとすれば、自分のペースで出来るような職場が合っています。

サラリーマンであっても ⇒ 自分のペースで出来る仕事

そうであるなら向いていますし、実力を発揮できます。

いつも誰かとチームを組んで、一緒に行動しなくては
いけない、組織の一員としてやっていかななくては
いけない。
そういう仕事には向いていません。

端的に言えば、部署にもよりますけど、サラリーマンで
組織の一員として、生きて行くには向かないのです。

貫索星がもつ意味合いを書いていますけど、一番の基に
なっているのは、〔守備本能の陽星〕という部分です。

「十大主星」の場合、（陽）なのか、（陰）なのか、ここ
は重要なところです。

貫索星 ⇒ 守備（陽）はじめに書きました。ここが最も重要です。

それぞれの「十大主星」は、その本能が（陽）なのか、
（陰）なのかが決まっています。

そこを基点にして、その星の意味合いが、全部出てくる
のです。十大主星は（陽）なのか（陰）なのか、それが大事な
焦点だと、現在はおもっていただければよろしいです。

そこで考えていただきたいのです。

貫索星をもつ人物は、どのようなときに、より頑固になるとおもいますか……？

頑固な人の心の窓を、少しでも開かせるには、どうしたらよいとおもいますか……？

どうすれば、より頑固になるのか？

どうすれば、心をひらいてくれるのか？

守備本能の（陽）は自分で自分を守ろうとする本能です。

どういう状況になると自分を守ろうとするのでしょうか。

それは他人^{ひと}から攻撃されたときです。

相手から攻撃されたとき ⇒ 守備本能を発揮する

守備本能ですから、誰かが自分を攻撃しようとしていなければ、自分を守る必要はないわけです。

守る必要がなければ、頑固な質は強くでません。

相手から批判されたときは、守備本能を発揮して、自分を守ろうとします。

相手から道理に合わない文句をいわれたとか、非難されたとかであれば、自分を守らなくてはなりません。

それゆえ、相手から何かしらの攻撃を受けたときほど、自分の考えや態度を守ろうとします。

攻撃されていなければ、自分を守る必要ないですね。

貫索星をもっている人に対して、「あなたって本当に頑固よね」とか、「人のいうことにまったく耳をかさないのね」とか、言えばいうほど、より頑固になっていきます。

そうすると、貝のようにピタリと閉じて、心をひらきません。

貫索星の人に“自分のいうことをきいてもらいたい”とおもうのであれば、批判や攻撃をしてはいけないのです。

貫索星の人に対して「貴方の意見には賛成だわ」とか、「貴方のいうこと、確かにその通りね」と、言ってあげると、貫索星は自分を守る必要はないので、頑固にならなくなって、「わたしも悪いところあったわ……」と、

はんせい

反省する姿をあらわすようになっていくのです。

そうしますと、何本能には—— こういう意味があるということ
を理解できていれば、いろいろ応用ができるようになります。

このことは、^{いま}現在すぐに全部を理解できなくても大丈夫
です。

〔たとえば〕貫索星であれば—— 守備本能の星ですから、
貫索星がもつ質をご自分のかんがえの^{うち}内に入れておくと、
^{ひと}他人の人体図を見ただけで、貫索星を喜ばせるにはとか、
困らせるにはとか、わかるようになります。

あるいは、この人物に好かれるにはどうしたらよいとか、
そういうところも理解できるようになってきます。

貫索星をもつ人物と話し合うことになったら、星本来が
もつ意味を考慮して、その本質に沿ってあげるほうが、
素直な気持ちで受け入れてくれます。

貫索星の人に「あなたのいうことって、まったく理解で
きないわ」といって、批判すると、よけい意地を張って、
ちょっとしたことにも、頑固になってしまうのです。

☞ 「十大主星」はすべて、人物に置き換えることができます。〔その星は誰になる〕という人物が決まっています。貫索星は〔兄弟の星・友人の星〕としてみます。

貫索星の人物 ⇒ きょうだい・友人

ちなみに〔どうしてこの星が、この人物になるのか〕というのは、「六親法 ろくしんほう」という技法が算命学にあります。いずれ習いますから、そこで理解できます。

「六親法」を基^{もと}にして、人物は決まっている。

〔たとえば〕玉堂星は母親の星で、禄存星は父親の星、司禄星は妻の星、牽牛星は夫の星というように、その星に相当する人物の意味も決まっています。

「研究専科」で六親法をまなびます。

なぜ、この人物になるのか……？

「それは六親法の技法を用いてでてきた人物である」

そのように現在^{いま}はおもってください。

☞ 陽占人体図をみて、人物の占いをするようになっていきますが、まずは基本だけ申し上げておきます。

〔たとえば〕人体図に貫索星をもっている人は「宿命に兄弟・友人の星がある」という意味になります。

宿命に兄弟の星があるわけですから、兄弟に縁^{えん}がある人です。というふうに考えてください。

宿命にある星の人物とは、縁があると考えます。

父親の星〔禄存星〕がある人は、父親と縁がある人ですし、母親の星〔玉堂星〕をもっていれば、母親と縁がある宿命です。ということになります。

☞ 小泉純一郎氏は貫索星が3つあります。(08 頁)

兄弟の星が3つもあるということは、兄弟との縁^{えにし}が深い（とても兄弟と縁がある）人といえます。

小泉さんには、姉が二人います。

彼が離婚した後に、姉たちが小泉さんの子供を育てました。

小泉さんは仕事でも私生活でも兄弟だらけです。

姉も秘書で、姉と結婚した義理の弟も秘書です。

家に帰れば、結婚していない姉がいて、その姉が子供たちを育ててくれたわけです。

どなたでも—— 宿命にでている星の人物とは縁がある。

現在の段階では“縁えんがある”ということだけを知っておいてください。

なぜなら—— 縁えにしにもさまざまな縁えんがあるからです。

〔たとえば〕兄弟であっても、ものすごく仲が悪くて、いつもイガミ合っている、いつも喧嘩している、という状況も縁のひとつです。

「私は兄弟と何十年も、ずっと争い続けています」そういう縁もあるからです。

〔仲のよい関係で縁ができるのか〕〔仲が悪い関係で縁ができるのか〕それは本人の宿命と、相手の宿命との相性あいしょうを観ないとわかりません。

それゆえ、闇雲やみくもに論じることとはできないのです。

〔たとえば〕A 女性の宿命には〔夫の星が多数ある〕とか〔子供の星がたくさんある〕とか、そういう宿命の人もいます。夫の星が多数あれば「夫に縁があります」とは

いえですけど、さまざまな読み方ができるのです。

「夫の星が多数あります。結婚で^{しあわせ}幸せになりますよ」と言ったら、それは^{まちが}間違いです。

その女性の宿命に夫の星がいくつもあるということは「夫になる人物と縁の深い人生です」とはいえませんが、それが彼女とどのような^{えん}縁なのかわからないのです。

「夫に毎日泣かされて過す」そのような人生でも、夫に縁があるのです。

「^よ善い夫にめぐり合って、その夫と仲良く暮らす」そういう人生も「夫に縁がある」といえます。

どのような縁なのか、それぞれの^{かくじん}各人の宿命を観ないとわからないのです。

☞ 「子供の星がいくつもあります。よい子に恵まれます」といったとすれば、正しい占いとは言えません。

子供の星がたくさんあれば、子供と縁が深い人生になるとはいえますけど、それがどのような縁のつながりなのかわかりません。それゆえ、子供の宿命を観ることで、はじめて論じることができるわけです。

〔たとえば〕 親が子供から迷惑をかけられるとか、子供で一生苦勞する。そういう人生になってしまう場合もあります。それゆえ“縁^{えん}がある”その縁^{えにし}にはさまざまな意味合いが含まれています。そのように考えておいてください。子供との縁のつながりで〔親が幸せになる〕しかし反対に〔親が不幸になる〕ということもあり得るのです。

のちのち
後々——人間関係の観方をまなびます。

〔結婚した相手と自分の相性がよいとか悪いとか……〕

自分の実^{じつ}の子供であっても〔この子とは気が合うけど、この子とは気が合わない〕とか、そういう事柄^{ことがら}も理解できるようになります。参考：事柄〔ことのありさま〕〔ことのすじみち〕

⇒ 貫索星が人体図にある人物の「ものの考え方」です。

とくに主星が貫索星

思考法 ⇒ 垂直思考



深くて狭い

貫索星の人は“垂直^{すいちよくしこう}思考”といわれています。

物事をじっくりと深く考えるタイプです。

落ち着いて時間をかけて思考するタイプですが、頑固な
ので、幅広く融通性のある考え方は苦手です。

どうしても狭い考え方になってしまう傾向があります。

その状況に臨機応変にススっとはいかないのです。

貫索星の質なのです。よいとか悪いとかを論じていません。

☞ どなたの人体図にも「十大主星」は5星でできます。
人体図の出し方はまだやっていませんが、5星のなかにおなじ星がいくつもある人物もいます。〔小泉氏は貫索星が3つありました〕貫索星に限ったことではなくて、おなじ星がいくつもでてきたら、おなじ星は宿命の特徴です。

☞ 小泉氏でいえば、貫索星が陽占の宿命（人体図）の特徴になります。

＊ むかいちあき 向井千秋（宇宙飛行士）1952(s27)5-6 大運は1歳運の逆回り

	壬	乙	壬		貫索星	天庫星	1 甲辰
寅	子	巳	辰	石門星	車騎星	調舒星	11 癸卯
卯		戊	乙	天将星	調舒星	天馳星	21 壬寅
		庚	癸				31 辛丑
	癸	丙	戊		主星		41 庚子
							51 己亥

☞ 人体図におなじ星が出ていなくても、主星の場所があります。主星の場所に載っている星は、その星の意味合いが強く出ます。

むかいちあき

向井千秋さんの主星は〔車騎星 しゃきせい〕です。

人体図の主星

おなじ星が複数ある

特に強く出る

向井千秋さん（宇宙飛行士）の人体図の主星は車騎星ですから、車騎星の質・意味合いが特に強く出ます。

車騎星は攻撃本能の（陽星）です。

向井千秋さんは「女という殻に閉じこもらず、自分として戦っていくべきだ」と語っています。主星が車騎星の姿といえます。

あるいは、おなじ星が複数ある場合も、星の意味合いは、特に強く出ます。それがよい悪いは論じていません。

	車騎星	
		車騎星
	車騎星	

車騎星が3つあります。

こういう人は車騎星のもつ質が強くでると考えます。

☞ 人体図には五つの場所があります。

どなたでも十大主星のなかの 5 つが人体図に載ります。

5 つ星がぜんぶ違う星という人物もおられます。

それゆえ——人体図に載っている星すべてを総合して、
この人体図の特徴は何なのか……ということを見つける
方法があります。

それはもう少し^{あと}後に出てきます。

つぎは〔石門星〕です ➡

☆ 石門星

せきもんせい

石門星 ⇒ 守備（陰）

石門星は（陰）の守備本能です。

自分を護るときに、まわりと協調して守ろうとします。

そこに相違点や利害があっても、まわりと協力しあって自分の立場を守ろうとします。

守ることに向かって、自分から歩み寄って行きます。

石門星は「協調・協和」の星といわれていますように、そこは特徴的な部分です。

参考：立場〔その人の置かれている地位や状況〕

まわりの人たちと友達になるのが得意ですから、集団をつくるのも上手です。

人体図に石門星を 1 個でももっていれば、そういう質があります。

〔たとえば〕人体図の主星（真ん中）に石門星が載っていたり、あるいは、主星ではなく、ほかの場所に石門星がいくつもあったりすると、特に石門星の性質が強くなります。

^{ひと}他人と付き合うのが上手でないと、協調・協和の質があるとはいえません。

社交性がある ⇒ 人付き合いが上手

石門星が主星だとか、あるいは、石門星が複数あるとすれば、基本的にどのような人物とでも友達になれます。しかし、誰とでも友達になれるから、誰とでもうまくいくのか……それは別です。

相手との相^{あいしょう}性とか、お互いの立場・状況にもよります。

石門星の質は、自分 1 人で自分を守るよりも、まわりの人達と一緒にになって守ってもらう、みんなと一緒に何かをやりましょう。そういうやり方が合っています。

何かの物事をやりとげるにしても、協力して行います。

1 人で行動するよりも、集団行動のほうが好きで得意。

単独行動するよりも、集団行動が好きだし得意です。

〔たとえば〕どこかへ遊びに行くというときでも、^{ひと}独りで行くよりも、何人かの友達と遊びに行ったほうが楽しいとおもうし、集団行動が好きです。

自分ひとりでやるより、みんなと一緒にやるほうがいい、
そういう性格の人物といえます。

仲間との交わりが好きで、誰とでも友達づきあいができ
ますから、みんなを誘って、みんなを集めて、行動する
ことが得意な人です。集りをまとめることもできます。

集団のまとめ役になれる。

社交性があって、人付き合いがよくて集団行動するのが
好きで得意なのですが——協調・協和について考えてい
ただきたいのです。

〔たとえば〕 Aさんという人がいます。

そのAさんはとても偉い人です。すごく威張^{いば}っています。
Aさんが「あっちへ行く」と言ったときに、まわりの人
たちが一緒にくっ付いて行きました。

それは協調・協和といえるのでしょうか？

この状態は、Aさんにまわりが従っているだけ、本当の
意味での協調・協和とはいえないとおもいます。

そうしますと「^{きょうちょう}協調・^{きょうわ}協和」それはどういうことなのか
ということになります。

参考：協調〔①利害の対立する者同士がおだやかに相互間の問題を解決しようとする
こと。②性格や意見の異なった者同士が互いにゆずり合って調和をはかること〕

参考：協和〔心をあわせ仲良くすること〕

算命学では〔自分の考え方を相手にわかってもらって、
納得したうえで共に行動する〕そのように考えています。

① 子供の頃に、ガキ大将がいて、その子は体が大きくて
強くて、「お前こっち来いよ」そういわれて、逆らえない
からついて行ったとすれば、本当の協調とはいえないは
ずです。強い人が、弱い人を無理矢理引っ張ってきても、
それは協和とはいえないはずです。

② ガキ大将の子がいて、こうやって一緒に遊んだほうが
楽しいじゃん、とかの説明をして、子供たちにわかって
もらったうえで、お互いにおなじような気持ちで、一緒
に遊ぶのであれば、協調・協和といえるでしょう。

ところが、相手を無理矢理に引っ張ってきて、その人が
仕方なくついて来るのは、協調にならないわけです。

石門星は自分の考え方を、相手に納得してもらいたいとする協調・協和の星です。

そのチカラ・説得力があります。

〔たとえば〕友達同士の関係でも、④さんが誘うと多数の人たちがついてくるけど、⑤さんが誘うと1人2人だけしかついて来ない。そのようなことはあるでしょう。

石門星の人が、みんなを誘うと、割とみんなついて来るといことが起こります。

自分の考え方を相手に理解してもらって「相手を納得させる」そういう質をそなえています。

それゆえ、本当の意味の協調・協和ができるわけです。

おなじことをいうのでも、ほかの人がいうより、石門星の人からいわれたほうが心にひびく・とどくといえます。

また、おなじ文句を言われるにしても、石門星の人から文句をいわれると、相手は強く感じるそうです。

よくも悪くも、説得力をもっています。

竹下登・前総理〔相手をほろっとさせる名人〕だったそうです。

＊ 竹下 登 1924(T13)-2-26 [2000-6-19] 76 歳没

							3 壬子
申 酉	乙	丙	甲		石門星	天胡星	13 癸丑
	亥	寅	子	玉堂星	石門星	龍高星	23 甲寅
				天極星	調舒星	天将星	33 乙卯
	甲	丙					43 丙辰
	壬	甲	癸				53 丁巳
							63 戊午
							73 甲戌

主星が石門星で、第四命星も石門星です。

お互いの考え方を理解し、納得させたいうえで、おなじ道を歩むとか、一緒に行動を起こさせる力量があるといえます。

誰とでも協調できます。ということは、誰とでも友達になれます。ともいえるわけです。

誰とでも友達になれる。

これは石門星のよさでもあるのですが、悪く出る場合もあります。

特に目上の人に対して——あたかも友人のように親しく

接して、その人を説得しようとしたらどうなりますか、
生意気だとおもわれてしまうでしょう。

協調・協和の質を見境なく、誰に対しても出してよいと
はいえません。

石門星は上司あるいは偉い立場の人にも、あたかも友達
のように接してしまう面があります。

目上からは生意気にみえやすい



目下や友達から見ると頼もしい

目下とか友達からみると、誰とでも仲良するからすごく
頼もしい人物だ。となるでしょうけど、目上の側からは
生意気だとおもわれるでしょう。

石門星をもつ人物としては、意気がった言動をするつも
りはないのですが、相手と協調しようする本能が強い
ので、この友達感覚の姿勢で接してしまうわけです。

目上の人物とか、立場が上の人物とは、ぶつかりやすく
なってしまいます。

それは石門星が反骨ともいえる質を有しているからです。

参考・反骨〔権威・権勢に容易に人に従わない気骨・気概〕

目上に対して、反骨の気持ちが出やすい。

目上に対して、反骨^{はんこつ}ともいえる質が出やすいのです。
協調・協和の星でありながら、うちがわに強い質をもち
ます。これは石門星がもっている隠^{かく}れた内面なのです。

どのような人にも、対等の意識をもっている。

誰とでも協調できる、誰とでも友達になれるというのは、
どの人に対しても「自分と相手は対等」そういう意識を
もっているということです。

目下の人たちと対等に付き合うことは“話せる先輩”と
いうふうにおもわれるわけです。

しかし、目上の人物にも対等の意識をもてば、生意気で
扱いにくい目下だとされてしまうでしょう。

それが表面化すれば、争うことにもなりやすいわけです。

目上で自分よりも偉いとおもっていても、何かのきっかけ
で、反骨が芽をだします。石門星がもつ対等意識が湧
き出てしまうわけです。よいとか悪いとか論じていません。

参考・対等「互いに相等しく、優劣の差がない」

石門星は協調・協和の星だといっても、いつもみんなと仲良くするという意味とは違うのです。

誰とでも友達になれますけど、内面には気が強い反骨の気持ちが横たわっているのです。

性格や意見の異なる者が互いにゆずり合って、調和を^{はか}図ろうとする協調の星ではあるのですが、ときとして内面に潜む反骨がでてきて、人とぶつかることもあるわけです。参考：ときとして「場合によっては」

それが「よいとか」「悪いとか」一切論じていませんよ。

☞ ここからは「仕事」ということで考えます。

協調・協和の星は、^{ひと}独りぼっちで仕事をする部署に配置されると持ち味を発揮できません。

石門星 ⇒ 組織のなかでの仕事にむく。

説得力があり、まわりをまとめる質を内在していますから、会社など、組織のなかで働いていると、この人物を中心とした仲間関係ができてきます。

そうしたなかで、石門星のもつ資質を^い活かしていくと、仲間のあいだで中心的存在に浮かび上がってきます。

組織の中心的存在になれるということは、自分で組織をつくり上げるようなことをするのもよいですね。

組織の中心的存在になれる。



自分で組織をつくったほうがよい場合もある。

人体図をだして、主星に石門星があるとか、主星の場所にはないけど、2つも3つもあるとか、そういう人は、組織のなかで生きると出世していきます。

政治家は政治の世界で組織をつくらないといけません。
組織の中心的存在になれる人物のほうが、政治の世界で
生きやすいといえます。

政治家にも向く

政治家に限ったことではないのですが、政治家に向いている星です。といえます。

✽ 小沢 一郎 1942(S17)-5-24

							5 丙午
	丁	乙	壬		牽牛星	天祿星	15 丁未
申	丑	巳	午	鳳閣星	石門星	鳳閣星	25 戊申
酉	癸	戊		天庫星	龍高星	天將星	35 己酉
	辛	庚	己				45 庚戌
	己	丙	丁				55 辛亥
							65 壬子
							75 癸丑

✽ 安倍 晋三 1954(S29)-9-21

							6 甲戌
	庚	癸	甲		禄存星	天恍星	16 乙亥
申	辰	酉	午	龍高星	石門星	玉堂星	26 丙子
酉	乙			天印星	調舒星	天将星	36 丁丑
	癸		己				46 戊寅
	戊	辛	丁				56 己卯
							66 庚辰
							76 辛巳

❖ 小沢一郎氏 主星〔石門星〕です。

❖ 安倍晋三氏 主星〔石門星〕です。

⇒ 小泉純一郎氏の人体図に石門星は1つありません。

小泉さんは協調・協和で派閥をまとめて組織をつくるというタイプではないわけです。

そうしますと〔石門星〕が1個もなく、政治家になるのであれば（組織作りとか）（組織をまとめる役割）とかは、ほかの人間に任せればよいのです。

〔たとえば〕人体図に石門星が1個もない人物が、自分で会社を興^{おこ}す。そういう生き方をすることも、当然あるわけですから、自分で会社をつくったら、人間関係とか、組織をまとめるのを、石門星をもっている人を雇^{こよう}用して、その人にやってもらおうとよろしいです。といえます。

ただし、石門星があるからといって、だれでもよいということではないです。間違えないでください。

❖ ホンダの創立者・本田宗一郎氏の主星は石門星です。

❖ 逃亡者カルロス・ゴーンの主星は石門星です。

☞ 人物で考えます。

石門星の人物 ⇒ きょうだい・友人

人物は貫索星とおなじです。

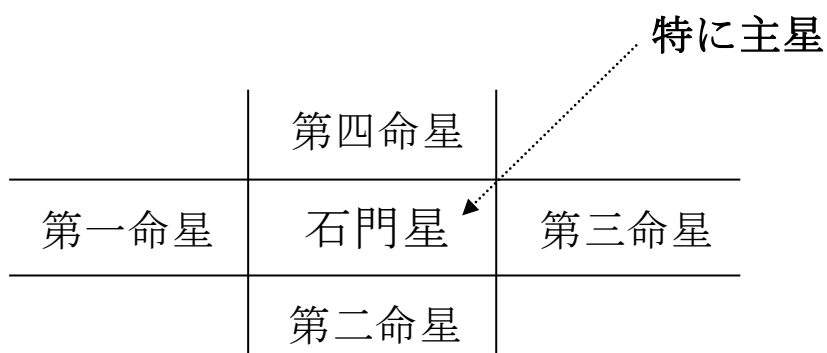
「十大主星」貫索星・石門星は「兄弟・友人」の星です。

思考法 ⇒ 水平思考（広くて浅い考え方をする人）

幅広い考え方をするのですが、その1つ1つは浅いです。
 どのような人物とでも友達になれますし、仲良くすることができるということは、思考の幅が広くないと、いろいろな人に合わせることはできないのです。

参考：思考「経験・知識などをもとに。あれこれと思いめぐらすこと」

☞ 思考法は人体図の「主星」でみます。



人体図の主星に「石門星」が載っています

人体図には「十大主星」が載る場所は5つありますから、星は5つ出てきます。主星の場所に石門星があります。人体図に5つ星が載っていれば、それぞれの場所と関連した意味があります。

特に主星の場所に載っている星の意味合いというのは、その人物の思考法として強くでます。

ここでは石門星が主星ですから、広くて浅い考え方をする人といえるわけです。

見方を変えれば、考え方が浅いので、意見をコロッと換^かえたりすることもあります。このことは欠点ということではなくて、石門星という星がもつ特徴のひとつです。

よいとか悪いとかを論じることはできません。

さきほど、主星が石門星は政治家にも向きます。と書きましたが、政治家という職業は、あっちへくつついたり、こっちへくつついたりしますし、意見をコロコロ変えたりもします。

算命的に考えれば、石門星にそのようなことが多くても当然なわけです。それは星がさせているからです。

おざわいちろう
小沢一郎さんの主星は石門星です。おかだかつや
岡田克也さんの主星も石門星です。元々は二人とも自民党です。

それが自由党つくって、また民主党に行ってと、あっちと協調したり、こっちと協和したりしたわけです。

それを上手にこなすのが石門星の質であり、よさでもあります。その^{しせい}姿勢・^{こうどう}行動を悪いとはいえません。

参考：姿勢〔物事に対するときの心の持ち方〕 行動〔他にはたらきかける行為〕

＊ 岡田 ^{かつや} 克也 1953(S28)-7-14

							3 戊午
丙 己 癸					牽牛星	天禄星	13 丁巳
戌	寅	未	巳	貫索星	石門星	禄存星	23 丙辰
亥	戊	丁	戊	天貴星	調舒星	天堂星	33 乙卯
丙 乙 庚							43 甲寅
甲 巳 丙							53 癸丑
							63 壬子
							73 辛巳

【初年】 29 回目【十大主星特性①】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 30 回目【十大主星特性②】 鳳閣星・調舒星